



2021年2月10日

各位

会社名 株式会社オーバル
 代表者 代表取締役社長 谷本 淳
 (コード番号 7727 東証第1部)
 問合せ先 経営企画室長 市村 隆博
 電話 03-3360-5009

業績予想の修正および中期経営計画の期間延長に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また、当社は、本日開催の取締役会において、2018年5月14日に開示いたしました中期経営計画「ADVANCE 2.0-2021」(2019年3月期～2021年3月期)の期間を1年間延長することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1.業績予想の修正について

2021年3月期通期連結業績予想数値の修正(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,500	60	120	65	2.90
今回修正予想(B)	10,250	△170	△80	△180	△8.03
増減額(B-A)	△1,250	△230	△200	△245	
増減率(%)	△10.9	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	11,886	484	561	282	12.61

修正の理由

売上高は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、各企業が収益の確保や雇用維持を優先し、設備投資に対して消極的となり、中止または延期とする動きが強まったため、1,250百万円前回予想を下回る見込みです。国内外ともに石油関連業界向けを中心に、センサ部門は約950百万円、システム部門は約300百万円それぞれ前回予想を下回る見込みです。システム部門につきましては、シンガポール子会社が石油関連大口システム案件の中止または延期の影響を大きく受けております。一方、サービス部門は堅調で前回予想並みの売上高を見込んでおります。利益面では、継続的に生産コストダウンや経費抑制に取り組んでおり、また収益性の低い大口システム案件の出荷が減少したことで、売上原価率は1.8ポイント低減したものの、売上高の減少により売上総利益が減少したことや、一部の子会社の業績が低迷していることもあり、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、前回予想を下回る見込みであります。今後、更なる修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2.中期経営計画の期間延長について

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大、長期化の影響を受けて中期経営計画策定時に前提とした事業環境が大きく変化し、当企業グループの事業活動にも影響を及ぼしていることにより、現中期経営計画で策定した一部の戦略が計画通りに実行できない状況です。これらに対して、事業環境の変化に対する体制整備を進めるため、中期経営計画の期間を2019年3月期～2021年3月期の3年間から、2022年3月期までの4年間に延長いたします。

2023年3月期を初年度とする次期中期経営計画については、事業環境の変化の見通しがたち、合理的な算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

以上